

映画予告編における言葉の感情的な印象が鑑賞意欲に及ぼす影響

土屋 奈穂子

本研究の目的は、映画予告編において感情的な言葉が鑑賞意欲にどのような影響を及ぼすのかを明らかにすることである。映画予告編は、映画を観るかどうか判断する大きな要因の1つである。通常、予告編作成者は、与えられた映像や音楽を元に予告編を作成する。音楽や映像は変更することが出来ないが、テロップは作成者自らが付加することの出来る要素である。それでは、どんな予告編を作成すればより視聴者の関心を惹き付けられるのであろうか。本研究では、ネガティブなテロップを提示すると、本編をより観たいと感じると仮説を立て、被験者実験を行った。その結果、明るい印象を与えるテロップが、個人の嗜好と観たさの度合の相関を強める可能性があることが分かった。

物語の多くは起承転結の段階を踏まえて成り立っており、登場人物が葛藤や苦痛を乗り越えて成長していく姿を描くのが脚本の基本的な構造である。また、人が悲しい物語そのものや、登場人物の葛藤や悲しみに共感し享楽を感じる仕組みが解明されてきた。それでは、映画予告編においては、登場人物の苦しみを強調するような暗い印象のテロップと、希望や成長を強調するような明るい印象のテロップのどちらが適しているのであろうか。

予備調査として、実験に使用する動画に挿入するテロップの文章を決定するために単語の感情価を測るアンケートを実施した。感情価とは、言葉から受ける明るい・暗いという印象の度合である。言葉から明るい、暗いどちらの印象を受けるかをSD法で7段階評価し、その結果抽出した言葉を本実験の動画にランダムに挿入した。本実験に使用した動画は、「レ・ミゼラブル」と「トゥルー・グリッド」の予告編である。元の動画において俳優名等のテロップがあった部分の映像を切り抜き、黒背景に白文字で作成した実験用のテロップ映像を挿入した。被験者へのアンケートにおいては、予告編を観て本編をどの程度観たいと思ったかの他、映像や音楽の好みなど嗜好にまつわる設問を設けた。その結果、本編を観たいかについて、明るい印象のテロップの動画と暗い印象のテロップの動画で有意な差は見られなかった。しかし、被験者アンケートにおいて、映像とテロップの不一致を感じた、単語を提示されても文記憶が容易ではない、などといった実験に使用した映像そのものに対する意見があった。よって、このような結果となったのは、被験者が実験用映像に違和感を感じたことが原因の可能性もある。

一方、明るい印象のテロップの予告編を観た視聴者グループにおいて、個人の嗜好と本編を観たい度合との相関が見られた。よって、明るい印象を与えるテロップが、個人の嗜好と観たさの度合の相関を強める可能性があることが明らかになった。

(指導教員 真栄城哲也)